

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長
鈴木 茂生

明けましておめでとうございます。

会員のみなさまにおかれましては、健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。日頃より本学会の活動に対しまして、多大なるご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

昨年は新型コロナの影響により社会全体が大きく揺れ動いた大変な年となりました。しかしながら、本会では皆様のご尽力のおかげで、大過無くシンポジウム等が適切に実施されましたことをご報告申し上げます。昨年6月の第27回クロマトグラフィーシンポジウムでは、対面での実施を急遽、断念せざるを得ませんでした。高柳俊夫（徳島大）実行委員長のご采配により誌上開催を無事、実施して頂きました。第31回クロマトグラフィー科学会議につきましては轟木堅一郎（静岡県大）実行委員長をはじめとする実行委員会の皆様が、with Corona に対応するべく企業様からのご意見を早期より伺いながら、綿密に御準備を進めていただきました。その結果、ほとんどの学会がオンライン開催となった中、11月にハイブリッドでの開催にこぎ着けることができました。クラスターの発生により参加が叶わなかった大学などもございましたが、多くの会員の皆様が対面できたことは大きな収穫でありました。これも産学が連携して運営されている本会ならではの実績であったと実感いたしました。各シンポジウム実行委員の皆様、ならびに本会を支えて頂いております企業の皆様のご協力に深く感謝申し上げる次第でございます。

事務局は学会の顔であり運営の要でございます。この大変な業務を長年、齊戸美弘（豊橋技科大）副会長先生にお願いして参りましたが、昨年中より北川文彦（弘前大）事務局長にバトンタッチしていただきました。本会発行専門誌の CHROMATOGRAPHY 誌につきましては、長年にわたる浜瀬健司（九州大）編集委員長のご尽力により、優秀な論文が多く寄せられるようになり、IF の取得も現実味を帯びて参りました。会員の皆様には、引き続き本誌への積極的な論文のご投稿をお願い申し上げます。来年度は、第28回クロマトグラフィーシンポジウム（6月9日～11日）を昨年に引き続き高柳実行委員長に徳島にて開催頂きます。また、第32回クロマトグラフィー科学会議（11月25日～27日）は東達也（東京理科大学）実行委員長に開催をお願いしております。

本会は会員数400名という小規模の学会でありながら、年に二回のシンポジウム、独自の欧文学会誌の発刊を維持できておりますのも、本会の盤石な基盤を築いて来られた先輩諸先生方のご努力に加え、本会の運営と経済面をサポートして頂いている企業の皆様、本会のさらなる発展を使命と捉え、精力的に献身いただいている役員・会員の皆様のご努力によるものであります。本会が今後ともクロマトグラフィーを中心とした分離技術に関する情報発信の中心でありつづけるものと確信しております。

会員の皆様におかれましては、本年も引き続きご支援のほどお願い申し上げます。